

【令和3年度 第12期 健康推進協議会 質疑回答】

※掲載したご質問で類似しているものは集約させていただきました。

	質問内容	回答
(1) 健康づくりサポートプラン令和2年度実施状況	実施状況に対するご質問はありませんでした。 ※高齢者へのロコモティブシンドローム（ロコモ）対策についての質問は「その他」として回答 なお事業番号につきまして一部番号が飛んでおりましたが、付番ミスによるものです。申し訳ございません。	
(2) 健康づくりサポートプランの計画期間の延長について	ご質問はありませんでした。	
(3) 骨粗しょう症検診と予防教室の実施について	受診率の予測受診者数（目標率）はどれくらいですか？	3,500人（10%）を想定しております。
	受診率を上げるためにどんな工夫をしていますか？	多くの方に受診してもらうために、練馬区医師会と連携し、多くの医療機関から協力を得ることができました。区報や区HPIにて骨粗しょう症について情報発信を行い、受診を促すと同時に、受診者には食事や運動習慣など骨粗しょう症予防のポイントが学べる講座や動画の案内といった検査結果に応じた予防教室の受講ができることを周知しました。
	対象者を75才までにしないのはどうしてですか？	骨粗しょう症検診は、自分の骨量を知って、減らさないように日頃からの食事や運動などの生活習慣で予防していくための検診です。国では検診の対象年齢の上限を70歳としていることから、区も70歳までとしております。
	測定方法について、二つの方法は選択制ですか？測定方法による精度の違いはありますか？	実施している医療機関によって測定方法が決まっておりますので、希望する測定方法があれば、対応している医療機関にお申込みいただく形になっております。腰椎・大腿骨DXA法は骨粗しょう症の精密検査に用いられる精度の高い検査方法になっております。対してMD法は短時間で済む、簡便な検査方法になっており、多くの医療機関で用いられている検査方法です。
(5) その他	コロナ禍による外出機会が減った高齢者に対してどんな、ロコモティブシンドローム対策を行いましたか？	区は、コロナ禍での外出機会の減少による高齢者のロコモティブシンドロームやフレイルの状態を危惧し、安全を確保したうえで、できる限り介護予防教室を継続開催しました。またコロナ禍のフレイル予防を啓発するポスター、チラシを作成し、区立施設や町会回覧板で広く区民への周知を行いました。 さらに、自宅でも心身の機能維持に取り組めるよう、オンラインによる介護予防・フレイル予防講座を実施しました。